

- 日時 : 2022年11月28日（月）～12月2日（金）
- 開催地 : エチオピア・アジスアベバ（UNECA（国連アフリカ経済委員会）カンファレンスセンター）
- 参加者 : 政府、民間企業、学术界、市民社会等から約2,500人が現地参加（オンライン登録もあわせると4,000人以上）。ハイレベルではエチオピアのアビイ首相、グテーレス国連事務総長が参加。総務省からは吉田総務審議官らが参加。

## 1. オープニングセレモニー

### (1) グテーレス事務総長（ビデオメッセージ）

「テクノロジーは生活を大きく変えつつあるが、同時に、規制を追い越し、不平等を悪化させるものでもあり、デジタルの未来は人間中心のもでなければならない」と発言し、ユニバーサルな接続性、表現の自由、プライバシーの権利、オンラインの安全性、安全で責任あるデータの利用等に言及。

### (2) エチオピア アビイ・アハメド首相

「エチオピアの包摂性と繁栄への願望がテクノロジーの進歩と密接に結びついている」と発言。「アフリカ諸国は、我々の価値観に調和し、革新的な技術を活用することで、標準（Standards）に影響を与えることができるはずだ」と発言。また、IGFが「我々が望み、強靱で安全で包摂的なグローバルコミュニティを確実に作るための、具体的で実用的かつ実行可能な提案」を提供するよう促した。



<エチオピア アビイ首相>

## 2. ハイレベル・セッション

### (1) ハイレベル・リーダーズ・セッションⅢ

エチオピア主催のハイレベル・リーダーズ・セッションにおける「デジタルの信頼とセキュリティ」をテーマにしたパネルセッションにおいて、国際的な信頼性のフレームワーク、サイバー空間における規範の必要性等様々な論点について議論が行われた。吉田総務審議官からは、デジタルの気候変動への貢献として日本の省エネ化の取組の紹介、サイバーセキュリティ分野の人材育成の重要性、偽情報対策は言論の自由を確保しつつグローバルなマルチステークホルダーが取り組むべき課題等と発言。



<ハイレベル・リーダーズ・パネルⅢ>

## 3. IGFリーダーシップパネル関連会合

### （1）IGFリーダーシップパネル

ヴィント・サーフ博士（インターネットの父の一人）を議長とする、国連事務総長が任命した各コミュニティ（政府、産業界、技術コミュニティ、市民社会等）の代表らによるリーダーシップパネルが本年8月に発足。IGFへの戦略的な助言、IGF及びそのアウトプットのプロモーション、ファンドレイジング、関連フォーラムとの連携等を担う。IGF2023ホスト国である日本を代表して吉田総務審議官がメンバーとなっている。IGFエチオピアの会期中、数回にわたって関連会合が開催された。

## 4. クロージングセレモニー

### （1）エチオピア デメケ・メコネン副首相/外務大臣

紛争や貧困などの困難に直面するエチオピアで未来のデジタル社会に向けたIGF会合を開催できた意義に触れ、関係者への謝辞等について発言。

### （2）松本総務大臣（ビデオメッセージ）

松本総務大臣によるビデオメッセージを投影。IGFエチオピア関係者への謝辞を述べるとともに、インターネットが包摂的な社会参画の基盤であり、ともに守り発展させなければならないこと、近年の様々な課題に対応するためマルチステークホルダーアプローチによる議論の重要性を述べるとともに、来年の日本開催について**開催地が京都市**であること及び**開催期間が2023年10月8日～12日**であることを正式に宣言。またクロージングセレモニーの最後に、京都のプロモーション映像を投影。



＜松本総務大臣のビデオメッセージ＞

## 5. 総務省関連セッション

### （1）日本政府主催・参加セッション

日本政府主催で、「インターネットシャットダウンとネットワーク制限」「越境データ流通の促進とデータ空間の信頼性」の2つのセッションを開催。関係のパネリストを招き、現状や今後の課題について、現地参加者・オンライン参加者とともに、活発な議論を行った。

その他、GPAI事務局主催「GPAI紹介」、国連DESA（経済社会局）主催「データガバナンスフレームワーク」、UK主催「インターネットの未来」、ICC主催「データ流通の信頼性」のセッションに飯田研究官がスピーカーとして参加。



# (参考) 来年の日本開催へ向けて参考となるポイント



(SNSへの投稿を意識したオブジェ。)



(参加者へ配布されたトートバッグ(中にはメモ用のノート)。エチオピアの名産品である革製品を使用。)



(国連側の保有するZoomを使用。オンライン参加者もチャット機能を使用してコメントを書き込める。)



(会場内はどこでもWiFi接続可能。速度は決して速くはないが問題のないレベル。)



(全てのセッションにほぼリアルタイムで英語のトランスクリプションが表示(カリフォルニアの企業が遠隔で実施している模様。)



(会期中は毎日参加者に昼食を提供。ビュッフェ形式でエチオピア料理を始め、アフリカ・欧州・アジア料理が提供。)



(IGFビレッジというブースコーナーで、総務省もブース展示を実施。京都サイドの協力も得て、京都のPR・質疑対応を実施。1000人以上が訪問。ピンバッジが好評。)



(会場近くの公園を利用したエチオピア政府主催の大規模なレセプション。IGFではミュージックナイトという開催国の音楽を奏でるものが恒例となっている。)